

# キャンプ地招致に向けた2015年度の主な取り組みについて

補足資料4

番号	報告事項	実施年月日	概要	成果等	課題等
1	キャノンイーグルス VS ブルーブルズ(南アフリカ)親善試合	2015.07.31	日本ラグビートップリーグ所属の「キャノンイーグルス」が、スーパーラグビーに所属する南アフリカの「ブルーブルズ」を日本に招き、合同練習及び親善試合を行った。 *日本のトップリーグ所属の単独チームが、スーパーラグビーに所属する南アフリカのチームを日本に招いたのは初めて。	前半3-14、後半0-36、計3-50と完敗の結果ではあったが、町田市陸上競技場に5,000人を超える観客が集い市民による「見るスポーツ」、「支えるスポーツ」の気運醸成の一助となった 「ブルーブルズ」チーム、ひいては、南アフリカ大使館とのパイプを得た	
2	第1回 オリンピックパラリンピックキャンプ地招致市民会議	2015.08.21	オリンピック等国際大会のキャンプ地招致により、子どもたちに夢を与るとともに、文化、スポーツ、経済、観光等を振興するため、市民・産・学・官が一体となり設置された「キャンプ地招致推進市民会議」の第1回会議が開催された。 【会議の内容】 1. 委嘱状の交付、会長・副会長選出 2. 町田市オリ・パラ等キャンプ地招致推進市民会議について 3. 各組織団体におけるキャンプ地招致推進事業・協力体制に対する意出し 4. キャンプ地情報収集、今後の周知イベントの予定等	・委員委嘱および、会長、副会長が互選により決定し ・各委員及び所属する団体の協力体制について意見交換をした ・市民会議と推進本部会議の役割・位置づけを明確にし「オール町田体制」での事業推進を確認した ・会議資料作成にあたっての事前調査で、キャンプ地招致における「人的つながりの優位性」を認識し、共有した	これまでのPR活動等の振り返りを行ったところ、イベント等での周知事業の際、来場者に比べチラシ等の配布数が少なかったと指摘があった。
3	2020年東京オリンピック・パラリンピック等 キャンプ地招致活動に関するアンケート実施 *対象:町田市オリンピック・パラリンピック等キャンプ地招致推進市民会議 委員(玉川大学、桜美林大学については、アンケートの代わりにヒアリングを実施)	2015.09.16	他自治体のキャンプ地招致成功事例調査により「人的つながり」による招致活動が大変効果が高いことが明らかになったのを受け、今後、本市での招致対象国、及び対象競技の絞り込みを行うにあたり、招致活動につなげることが見込めそうな、外国の競技団体・選手等との縁があるか否かの情報収集の為、アンケートを実施した。	一部競技で中央競技団体とのつながりがあることが判明した。また、今後の進め方についての具体的な助言を得た。	市民会議委員のネットワークでは、招致活動に直接活用できそうな「海外競技団体との人的つながり」は得られなかった
4	世界陸上事前キャンプ千葉県下施設視察	2015.10.08	世界陸上2015北京大会の事前キャンプ地である千葉県内の4か所について、施設を見学するとともに、各施設の担当者に協力を仰ぎ、ヒアリングを実施した。 ①順天堂大学さくらキャンパス(印西市) ・23,858㎡、400m:8レーン ・トレーニングセンター ②中台運動公園(成田市) 400m全天候型8レーン、照明4基フィールド:106.75×71.47m 収容人数:メインスタンド1300人、バック、サイドスタンド芝生席 ③岩名運動公園(佐倉市) 敷地総面積196,000㎡ 日本陸連第3種公認 400m 8コース メインスタンド 収容人数1,022人 芝スタンド 収容人数 4,100人 ④千葉県総合スポーツセンター(千葉市) ○第1陸上競技場 37,500㎡ 収容人数30,000人 雨天走路:66m×6.8m 400m全天候型舗装8レーン140m ○第2陸上競技場 23,000㎡ 収容人数3,000人	ヒアリング、施設の見学等により、主に以下の項目について知見を得た ○推進体制等 ・県主導、複数市協働での招致体制 ・縁による招致(順大陸上部とアメリカ陸上チーム) ○求められた設備(トレーニング設備・アイシング設備・wi-fi環境等) ○海外チームとの費用分担 ・アメリカについては、輸送・警備、器具のレンタル料、イベント費用等3,500万円程度オランダ・ベルギーについては輸送・警備費2,500万円程度を県が負担。 ○招致外国チームとの交渉方法・条件 ・市民は交流を望むが、選手は競技練習に集中したいので、契約段階で交流について盛り込む ○レガシー ・「招致～実際のキャンプ地運営」までを一通り経験し蓄積したノウハウを得た ・小中生競技力、英語の学習意欲向上 ・市内観光施設での様子がSNSで発信されたことによるPR効果	○町田市による今後の招致活動における注意点など助言 ・スポーツ振興課だけで進めていくのは難しい。文化、国際交流等の担当課と総動員で取組むべき ・2013国体でのバドミントン競技開催はアピールポイントになる。 ・市内で、外国の競技団体等と交流があるなら糸口に使うべき。
5	2020年東京オリンピック・パラリンピック等 キャンプ地招致活動に関するアンケート実施 *対象:町田市内23競技団体	2015.10.14	他自治体のキャンプ地招致成功事例調査により「人的つながり」による招致活動が大変効果が高いことが明らかになったのを受け、今後、本市での招致対象国、及び対象競技の絞り込みを行うにあたり、市内各競技団体が、専門競技のキャンプ地招致の優位性についてどのように考えているか、また、招致活動につなげることが見込めそうな、外国の競技団体・選手等との縁があるか否かの情報収集の為、アンケートを実施した。	23団体中21団体から回答を得た。 中央競技団体と関係のある競技団体、キャンプ地招致に前向きな競技団体があることがわかった	招致活動に直接活用できそうな「海外の競技団体との人的つながり」は得られなかった。
6	Tokyo2020 事前トレーニング(キャンプ)情報提供並びにキャンプ地決定時における受け入れに係る意思表示申請書」の大会組織委員会への提出	2015.10.15	-	-	-
7	町田市ゆかりのオリンピック土佐礼子さん講演会『私とオリンピック』開催(市民会議主催)	2015.12.04	町田市とゆかりの深いオリンピックである土佐礼子氏(三井住友海上陸上競技部所属プレイングアドバイザー)を講師に迎え講演会を開催。土佐さんの講話後、川崎教授(玉川大学教育学部教授、陸上競技部部長)をナビゲーターにトークショーを開催した。	町田市民を中心に129名の出席者を得た。 土佐礼子さんから自身のオリンピック出場・入賞経験を通して感じたこと等をお話しいただいた後、川崎教授との対談により、町田の魅力、町田のスポーツの将来、オリンピックパラリンピックのレガシー等について土佐さんから話をいただくことで、市民のオリンピック・パラリンピックキャンプ地招致への気運醸成の一助となった。	
8	バドミントン日本リーグ町田大会の開催	2016.01.23	バドミントン国内最高峰のリーグ戦を町田で開催することが出来ました。出場チームの中には、リオ五輪の代表候補の選手も多数いたため、多くのお客様に観戦していただくことができました。 当日のオリパラ啓発イベントとしては、陣内貴美子氏、小椋久美子氏、パラバドミントン選手の豊田まみ子氏を招き、トークショーを実施しました。	大会誘致の過程の中で、競技団体との強い関係性を築くことができ、東京都主催のジュニアスポーツアジア交流大会にもオブザーバとして参加し、アジア各国の関係者に町田のスポーツ施設の広報を実施できた。 また、各実業団チームともつながりを持っていたので、今後のキャンプ地招致に向けて協力関係を築きやすい状況が整備できた。	